

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 6

275号

平成28年 6月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

はなちゃん先生

院長

ちょっと変な題で意味不明かもしれませんが、ある人物について書いてみます。その人は小児科医自見はなこ先生です。小児科医の身内であり、記事の中では親しみを込めて“はなちゃん”と呼ぶことにします。

“はなちゃん”は、小児科医として病院勤務をしている傍ら、母親と子どもたちが安心して暮らせる社会を目指して、持てる力を発揮しようがんばっています。昨年会長を務めた日本外来小児科学会年次集会のメインテーマは、「未来を担う子どもたちのために」だったことを覚えている人も多いでしょう。さて、それでは「未来を担う子どもたちのために」、一体何ができるのでしょうか。子どもたちのためにできること、もしくはしなければならないことは、極端に言ってしまうと無限に存在します。子育て支援と一括りにするのは簡単ですが、家庭、保育・教育、医療、地域、地方自治体、国の役割があり、それぞれの領域での対応、対策が必要になります。誰でもできるものもあれば、誰かにしかできないものもあるのです。そんな理由で、年次集会のサブテーマは「小児科医に託されるもの」としました。会長講演でも示しましたが、「お母さんの不安・心配の解消」の開業理念を基にして、診療以外にも小児科医という立場で様々な現場と連携しながら東奔西走し阿修羅のごとく子育て支援活動を続けています。ちょっと格好よく書きすぎましたが、FBを見ている人は納得してくれるに違いありません。

“はなちゃん”について書くと言っておきながら、自己顕示欲が強い院長は相変わらずの自慢話に傾いてしまいました。とは言うものの、小児科医に託されるものがあるとしても、小児科医ができることはごく僅かです。自分の回りには多少の影響力が及ぶかもしれませんが、少し離れてしまうだけで力は減衰してしまうのです。さて、このような問題を解決する方法はあるのでしょうか。草の根運動のように、それぞれの小さな活動の集積が国を動かすことは可能です。しかしながら、もっと確実な方法はトップダウンで、子どもたちの置かれた立場、そして母親たちの想いを国が理解して対応することです。安倍総理の第三本の矢に「夢を紡ぐ子育て支援」が示され、現在1.4程度の出生率を1.8まで回復、子育てにかかる経済的負担を軽くするための幼児教育の無償化、結婚支援や不妊治療支援に取り組むとしています。子育て支援の重要性は誰で

もが理解しているものですが、政策となれば優先順位に差が出るのは仕方ありません。高齢者向け給付金の決定に、子育て世代への支給が重要ではないかとの疑問も湧き上がりました。

またまた脇道にそれてしまいましたが、今度こそは“はなちゃん”の番です。2月の日本医師会母子保健講習会のシンポジウムで、“はなちゃん”がパネリストとして「小児科医から見た少子化対策」を担当しました。内容は、「少子化は社会保障の担い手不足、労働市場の縮小化は今後の構造的問題の原因であり、その背景には“産みたいのに産めない”がある。結婚5年未満の望む理想の子ども数は2.30であるが、現在の子ども数は、僅か0.72に過ぎない。その理由は様々だが、経済的負担が最も高く若年層により顕著である。少子化対策には、出産育児休暇制度充実、貧困対策、格差対策、ひいては税制まで幅広い対応が必要である。それと平行して、子育てに伴う医療・保育サポートも重要であり、成育基本法の早期制定も望まれる。さらには子どもの心、子どもの体の発達・発育を中心に据えた子ども・子育て支援、あるいは少子化対策であってほしいというのが小児科医としての私の願いである。」でした。

“はなちゃん”との出会いは昨年日本小児科医会乳幼児学校保健研修会で、初対面にもかかわらずツーショットとともに日本外来小児科学会参加を約束してくれました。私を気に入ってくれたのか？(笑)、その後も参加する会では、ことごとく待ち伏せていたのです。という訳ではなく、自分が参加する会でたまたま講演してただけですが…。会う機会が増え、Facebookの友達、クリニックに来訪、ツーショットもたまりました。さらに、縁というのは不思議なもので、昨年12月の飛鳥IIで笑顔のツーショットを撮った帰り、東京駅のホームで手を振っている女性がいました。あれ〜と思ったら、“はなちゃん”。いくらなんでも、でき過ぎた偶然でした。新幹線の中では立ったまま1時間以上、子どもと母親たちのために役立つという決意を聴かせてくれました。熱き思いにあふれた語り口と会う度に感じる優しい人柄から、「未来を担う子どもたち」を任せられる小児科医は、彼女しかないと感じています。

最後にちょっとしたエピソードを…。先日宮城県医師会で励ます会が開催され、仕事の都合上遅れて参加し一番後ろで立っていました。ふと目が合った気がしましたが、講演が終わった途端“先生後ろで立っているのが目に入りました。立たせたままで申し訳ありません”と駆け寄ってきてくれました。この気遣いと優しさ、ますます応援する気持ちが強くなったのは言うまでもありません。

こんな“はなちゃん”です。皆さん、是非応援よろしくをお願いします♪(´θ`)/



6月のお知らせ

- ・医学部学生実習
17日(金)
ご協力をよろしく申し上げます。
- ・栄養育児相談
8、22日(水) 13:30～
栄養士担当 参加無料
- ・休診案内は2面に

『がんばろう！熊本 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は僅か4通でしたが、クリニック F.B ページにもコメントがたくさん寄せられています。F.B. は誰でも読めますので、是非ご覧ください。まずは秋田の浅野さんからうれしいメールと写真を頂きましたので紹介します。「先生、クリニックスタッフの皆様、お変わりないでしょうか。浅野花みち・花怜母です。5月も今日で終わり。初旬には花みちがお世話になりました。受診して、1週間程で体調よくなり、運動会も元気に頑張ることができました！何よりも、受診当日、先生、クリニックの皆さんに会えて安心した様、私もすごく安心、皆帰宅の車中ご機嫌でした！花みち、今はスポ小(ミニバス)をしながら、陸上の100メートル走選手で今週末由利本荘市の大会にでます。しばらく前から長く走ると左膝が痛いといっていたので1週間前整形外科を受診、ジャンパー膝とのことでした。運動制限ないものの、「痛いときは休む」という指示でした、今はやりたい気持ちが強く、なかなか自分で休めていない様子です。頑張る気持ちがあるから応援してあげたいですが、本当に痛くないのかと、もどかしい日々です。先生、もしも上手く休ませてあげられる魔法の言葉があったら教えてくださいm(_ _)m。花怜は夜の咳がなかなかとまりませんが(1週間前から風邪症状で投薬中)、学校は元気に通っています。給食が一番の楽しみだそうです。お礼方々近況報告のメールでした。一緒にとっていただいた写真、とてもうれしかったです、添付します(*^-^*)。



先生、皆様、お忙しい日々と思います、お体くれぐれも気をつけてお過ごしください。遠方ですが、また頼らせてください。ありがとうございます！。さて、院長はどう返信したのでしょうか。「メールありがとう。みんな元気そうで安心しました。また写真を送っていただき、ありがとうございます。さて花みち君の件です。魔法の言葉ではありませんが、一言伝えてください。「今がんばることは素晴らしいことだよ。でも無理をしてしまうと悪いところをさらに傷めるかもしれない。傷めたら、大好きなミニバスが将来できなくなることを考えよう。将来もミニバスを続けたいなら、痛いときは休むことが大切だよ。」と、伝えてください。かわむら先生の言葉なら効くかもしれません。それと、いつものようにメールみんなに読んでもらいました。NEWSに載せていいですよ。ということで、よろしく！！」。もともとかかりつけでしたが、転居後はメールで繋がっています。仙台に来た時に体調を崩して立ち寄ってくれたこと、お礼と近況報告は理念の正しさを証明してくれています。さて、院長に期待した「魔法の言葉」は、どの程度効果があったのでしょうか(笑)

もうひとつ、医療相談者からメールです。内容はいずれ紹介しますが、母親の悩みの深さを伝えるための掲載です。「お返事ありがとうございます。お忙しいのにご面倒ばかりお掛けして申し訳ありません。先生が詳しく教えてくださったおかげで、よく分かりました。脳に障害を与えるような影響は起こりえないのですね。この一年自責の念と罪悪感で悩み、毎日娘に謝り続け、心から笑える日はありませんでした。これではいけない、明るくふるまわないとと頭では考えるのですが気持ちがついてこず、毎日毎日をやり過ごすのが精一杯でした。夫婦喧嘩も増えました。でもその方が子供にとっては悪い環境ですね。先生の仰る通り後悔しても子供が伸びるわけではないです。私が笑顔でたくさん語りかけ、絵本をよんだり触れ合ったりすることが大事ですよ。これからは頑張ります。遅れに気づく度に悲しくはなりますが、私の大切な娘です。前向きに愛情かけて育てていきます。何度も何度も相談に乗って頂き本当にありがとうございました。先生のおかげで生きる希望が生まれました。感謝してもしきれません。本当にお世話になりました。」。ありがとう！！



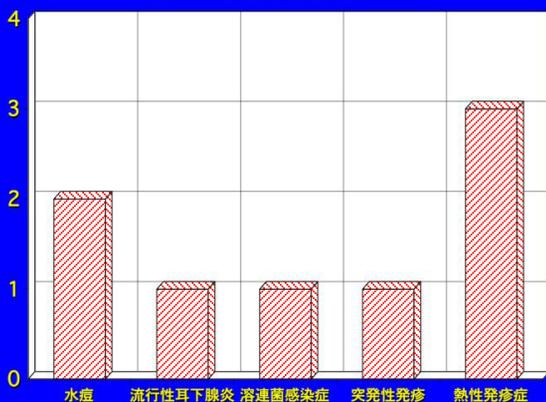
休日当番のお知らせ

・6月5日(日)は在宅休日当番です。
上手にご利用ください。

休診のお知らせ

・6月10日(金)・11日(土) 日本小児科医会総会フォーラム(米子)のため休診となります。このところ休診が続きます。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解の上ご協力をお願い致します。

5月の感染症の集計



水痘は増加傾向はなく2例のみで、久しぶりにおたふくがありました。溶連菌感染症は少なく、目立った感染症の流行はありません。溶連菌感染症の診断が目立ちますが、症状が違うだけでなく検査結果がはっきりしない場合や提示されないこともあるようです。典型的な症状は、咽頭痛、発熱(ない場合も)と発疹です。小児科医は一目で分かりますが、のどの強い赤みが特徴です。そして原則、鼻汁、咳嗽はありません。一番の注意は腎炎の合併をすることです。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTube、ブログにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

一面記事はいつもと違う形式をとりました。院長が自分以外の人のことを書くのはとても珍しいことです。何故こんな記事を書いたのか。ちょっと意味不明のところがありますが、懸命な読者であれば近々わかるでしょう。院長ほどではありませんが(笑)母親の強い味方になってくれる小児科医であることには、太鼓判を押しておきます。ともかく、応援よろしく願います。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！